

21.3.19

鹿大の チカラ

KAGOSHIMA
UNIVERSITY

水産学部

じます 増田 育司 准教授(57)



「予どものいんから魚を釣るのも食べるのも大好きだったから、そんな研究をしてみたいと思つた」

増田育司准教授の研究の原点が広くなる。魚も高齢になると、次第に成長が衰え、やがて止まる。ある時期から紋の幅がほとんどなくなり、本来よりも年齢を低く見積もることになるといふ。

より正確に年齢を調べる方法がある。「耳石」だ。脳の下部

シウムでできている。これを中約一千匹がサンプル。2人の研究者ガオス424匹、メス48匹で、年輪のように紋が重なつてゐることが分かる。成長が止まつても耳石は成長する。

97年から02年にかけ、指宿市の県水産技術開発センターと共に近海でどれかヒラメの成長と成熟、漁獲量の推移を調べ、資源管理の方向性をまとめる研

じのさまざまな情報を把握する

ことにつながる。

この紋を数えるのが年齢

査定の一般的な手法。年を重ね

ることに年輪のように紋が外側

に広がり、年輪と寿命を推定し

てきた。

だが、増田准教授は「その方

法だと正確な年齢より低く見積

てきる」として、年輪を重ね

ることに年輪のように紋が外側

に広がり、年輪と寿命を推定し

てきた。

このままままに年輪を重ね

ることにつながる。

このままままに年輪を重ね